知识人因工程实验室

日本語メディア手描き絵本閲読

我的第一本多媒体手绘

日语阅读书

经典故事晨读版

- 本书精选了日本人最喜爱的经典故事。
- 原汁原味，资深外教全程朗读，自然语速，带您走进日语学习的佳境。
- 创新学习理念，全手绘看图背诵，让您和枯燥的死记硬背说88~!
- 超值服务，随书配套MP3外教朗读资料，免费赠送，让您感觉更给力！

中国海洋大学出版社
CHINA OCEAN UNIVERSITY PRESS

我的第一本多媒体

手绘日语阅读书

（经典故事晨读版）

主编 王玉珊
录音 泉田真理
插图 王瑾

中国海洋大学出版社
·青岛·

图书在版编目（CIP）数据

我的第一本多媒体手绘日语阅读书：经典故事晨读版 / 王玉珊主编. —青岛：中国海洋大学出版社，2012.3

ISBN 978-7-81125-975-9

Ⅰ.①我… Ⅱ.①王… Ⅲ.①日语—阅读教学—高等学校—教材 Ⅳ.①H369.4

中国版本图书馆CIP数据核字(2012)第030514号

出版发行　中国海洋大学出版社

社　　址　青岛市香港东路23号　　邮政编码　266071

出 版 人　杨立敏

网　　址　http：//www.ouc-press.com

电子信箱　pankeju@126.com

订购电话　0532-82032573（传真）

责任编辑　可　菊　　电　　话　0532-85902533

装帧设计　青岛乐道视觉创意设计工作室

印　　制　日照日报印务中心

版　　次　2012年5月第1版

印　　次　2012年5月第1次印刷

成品尺寸　145 mm × 184 mm

印　　张　7

字　　数　150千字

定　　价　24.80元

前言 • Preface

一个故事可以影响人的一生，一则美文可以改变人的命运。本书收集了40个扣人心弦的人生哲理故事，深度挖掘平凡小事蕴藏的精神力量和人性之美，真切倾诉对生命的全新体验和深刻感悟，字里行间洋溢着感恩、信念、鼓励和希望。这些故事或充满启迪，或温情浓浓，或发人深省。读者可以通过阅读书中故事，学习为人处事的道理，领悟故事中蕴藏的人生哲理。

书中的故事大都短小精悍，语言精炼，趣味性强。每一个故事都以中日对照的形式向读者呈现，译文力求忠实通顺，以期对读者的日文阅读起到良好的辅助作用。每篇故事都附有日文单词注释，帮助您同步记忆单词。此外，书中还配以契合文意的图片，打造出一个生动的、立体的、极具文化魅力的阅读空间，给您一种与众不同的视觉享受，也扩大了您的想象空间，使您在轻松学习知识、提高阅读效果的同时，获得更多的审美享受、人文熏陶。您还可以免费下载本书相配套的MP3（http://www.ouc-press.com/tezhandui.htm），由日籍外教录音，发音纯正、形象生动。读者可以模仿朗读，提高日语口语及听力能力。

当您看其他书看累的时候，或觉得学习枯燥的时候，或临睡的时候……那就请您翻开这本书吧！我们出版这本书的目的就是让您体验到日语学习的无限乐趣，让您在快乐学习的同时，提高日语阅读和口语水平。

本书正期待着您轻轻地打开，让我们一起细细地品味……

目录·Contents

1. 猫追老鼠的由来 1
2. 好好看着 5
3. 雪女 9
4. 返老还童的神水 15
5. 神奇的头巾 20
6. 稻秸富翁 30
7. 因幡白兔 35
8. 黄莺之家 39
9. 老鼠嫁女儿 46
10. 仙鹤报恩 49
11. 虾为何弯着腰 57
12. 有毒的糖稀 63
13. 饭团咕噜噜 67
14. 咔哧咔哧山 72
15. 半死和全死 80
16. 报恩的猫 83
17. 力太郎 92
18. 让树开花的老爷爷 98

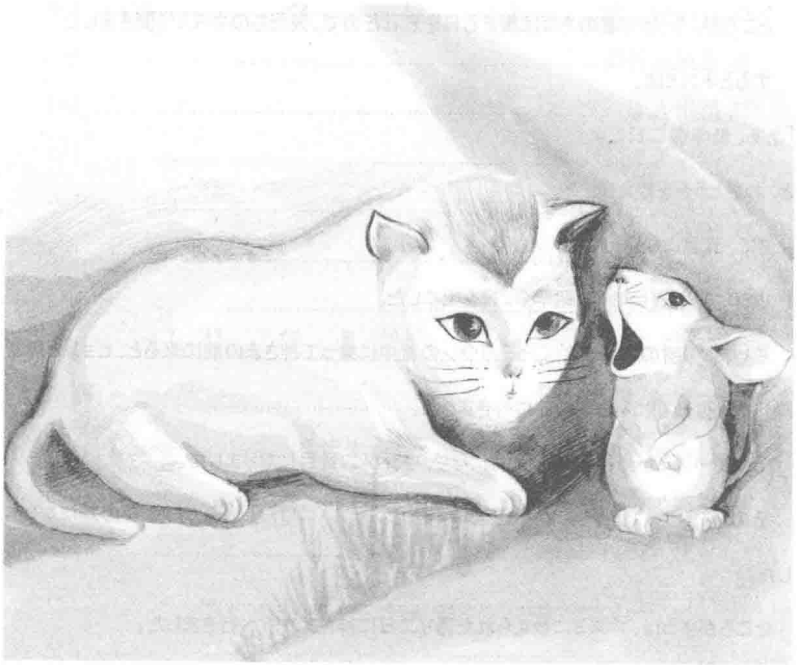
试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

19. 比拧 103
20. 金太郎 110
21. 浦岛太郎 114
22. 狐狸和彦一 123
23. 屏风上的老虎 128
24. 狐狸变的茶锅 131
25. 弃母山 136
26. 老鼠的名作 142
27. 拇指太郎 149
28. 割掉舌头的麻雀 153
29. 放屁大王媳妇 159
30. 海水为什么是咸的 163
31. 三年睡太郎 167
32. 老鼠相扑 170
33. 天羽衣 174
34. 赫夜姬公主 179
35. 田螺少年 183
36. 猴蟹大战 189
37. 尾巴钓鱼 194
38. 一寸法师 198
39. 兔子和太郎 204
40. 斗笠地藏 214

第一天

ネコがネズミを追(お)いかける訳(わけ)

猫追老鼠的由来



01 ネコがネズミを追いかける訳

むかしむかし、人間も生まれていない、大むかしのある年の暮れの事です。

神さまが、動物たちに言いました。

「もうすぐ正月だ。元旦には、みんな私の所に来なさい。そして、先に来た者から十二番目までを、その年の大将としよう」

ところが、うっかり者のネコは集まる日を忘れたので、友だちのネズミに聞きました。

するとネズミは、

「ああ、新年の二日だよ」

と、わざとうそを教えました。

さて、元旦になりました。

ウシは足が遅いので、朝早くに家を出ました。

ちゃっかり者のネズミは、こっそりウシの背中に乗って神さまの前に来ると、ピョンと飛び降りて一番最初に神さまの前に行きました。

それでネズミが最初の年の大将になり、ウシが二番目になりました。

その後、トラ・ウサギ・タツ・ヘビ・ウマ・ヒツジ・サル・ニワトリ・イヌ・イノシシの順になりました。

ところがネコは、ネズミに教えられた通り二日に神さまの所へ行きました。

すると神さまは、

「遅かったね。残念だけど、昨日決まったよ」

と、言うではありませんか。

くやしいのなんの。

「ネズミめ、よくも騙したな！」

怒ったネコは、それからずっと、ネズミを見ると追いかける様になりました。

猫追老鼠的由来

这是发生在很久很久以前，人类还没有诞生的某年岁末的故事。

神对动物们说："就快到新年了。元旦的时候请大家到我这里来。届时，先到的12名将按照顺序封为那一年的大将。"

可是，粗心的猫因为忘记了集合时间，就去问它的好朋友老鼠。

于是，老鼠故意撒谎骗它说：

"啊，是新年的第二天呀。"

终于到了元旦那一天。

牛知道自己脚程比较慢，所以一大早就从家里出发了。

机灵的老鼠偷偷地坐在牛背上，等到了神面前时，它嗖地一下从牛背上跳下来，第一个来到了神的面前。

因此，老鼠就成了当年的第一位大将，牛排在第二位。

接下来的顺序分别是老虎、兔子、龙、蛇、马、羊、猴、鸡、狗、猪。

而猫按照老鼠说的时间，在新年的第二天来到神的住所。

于是，神对它说："你来得太晚了。虽然很遗憾，但是昨天都已经封完。"

猫后悔得不得了。

"该死的老鼠，骗得我好惨！"

打这以后，（就变成我们今天所看到的）——愤怒的猫一看见老鼠就穷追不舍。

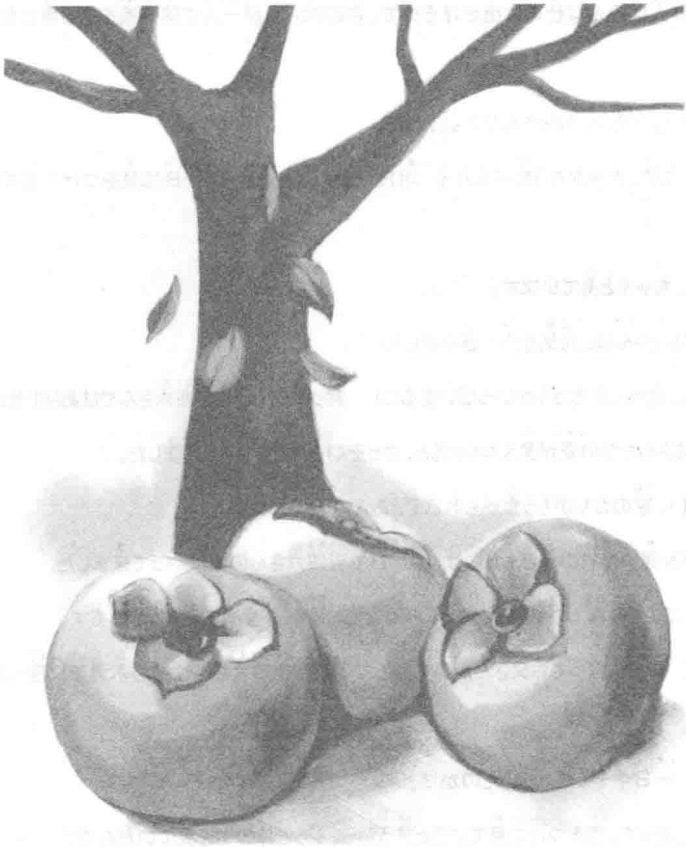
訳（わけ）	理由、原因
生まれる（うまれる）	出生、诞生
大むかし（おおむかし）	很久以前
暮れ（くれ）	岁末、年底
神さま（かみさま）	上帝、神
さき	最先、早
うっかり	漫不经心、稀里糊涂
集まる（あつまる）	集合、聚集

わざと	故意地
うそ	谎言、假话
教える（おしえる）	告诉、指教
飛び降りる（とびおりる）	跳下
こっそり	偷偷、探头探脑
トラ	老虎
ウサギ	兔子
タツ	龙
ヘビ	蛇
ウマ	马
ヒツジ	羊
サル	猴子
ニワトリ	鸡
イヌ	狗
イノシシ	野猪
順（じゅん）	顺序、次序
残念（ざんねん）	遗憾、可惜
決まる（きまる）	决定
ずっと	一直
追いかける（おいかける）	追赶

第二天

じっと見(み)つめていました

好好看着



试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

02 じっと見つめていました

むかしむかし、吉四六さんと言う、とてもゆかいな人がいました。

その吉四六さんが、まだ子どもの頃のお話です。

ある秋の事。

家の人はみんな仕事に出かけるので、吉四六さんが一人で留守番をする事になりました。

出かける前に、お父さんが言いました。

「吉四六や、カキがもう食べられる。明日木から落とすから、今日は気をつけて見ていてくれ」

「はい。ちゃんと見ています」

吉四六さんは、元気な声で返事をしました。

でも、食べられるカキがいっぱいあるのに、黙って見ている吉四六さんではありません。

お父さんたちの姿が見えなくなると、さっそく村の中を走り回りました。

「おーい、家のカキがもう食べられるぞ。みんな食べに来い」

これを聞いた村の子どもたちは、大喜びで吉四六さんの家にやって来ました。

そして、長い棒でカキを落とすと、みんなでお腹一杯食べてしまったのです。

さて、夕方になってお父さんが家に戻ってくると、吉四六さんは柿の木の下に座っていました。

「お前、一日中そうやっていたのか？」

「はい。だって、気をつけて見ていろと言うから、ジッと柿の木を見ていたんです」

「そうか。偉いぞ」

感心したお父さんが、ふと柿の木を見上げて見ると、カキの実がずいぶんと減っています。

「おや？

カキの実がずいぶん減っているな。

これは、誰かが取って行ったに違いない。

おい吉四六、これはどうした事だ？」

すると吉四六さんは、平気な顔で言いました。

「はい、村の子どもたちが次々と来て、棒を使ってカキの実をもいでいきました。

私は言われた通り、気をつけて見ていたから間違いありません」

「とほほ。…カキ泥棒が来ないよう、気をつけて見ていろと言ったのに」

お父さんはそう言って、ガックリと肩を落としました。

好好看着

很久很久以前，有一个名叫吉四六的非常快乐的人。

这是发生在吉四六孩提时代的故事。

故事发生在秋天。

因为家里人都出去干活了，吉四六就一个人留在家里看门。

父亲走之前对他说：

“吉四六，柿子已经可以吃了。明天就从树上摘下来，所以今天你要好好看着。”

“好嘞。我一定好好看着。”吉四六痛快地回答父亲。

可是，成熟的柿子很多，吉四六无法只是干看着而不做点什么。

等到父亲的身影刚一消失，他就马上跑到村子里，大声喊道：

“喂，我家的柿子可以吃了，大家都来吃柿子啊。”

村里的孩子们听到这个消息非常开心，都跑到吉四六家里。

然后，大家用一根长长的棍子把柿子打下来，饱餐了一顿。

话说到了傍晚，父亲回到家里，发现吉四六正坐在柿子树下。

“嗨，你一天都是这么坐着的吗？”

“是的。爸爸不是说要好好看着吗，所以我一动不动地盯着柿子树。”

“是嘛。真了不起。”

父亲很是感动，可是不经意抬头一看，发觉树上的柿子少了很多。

“哎呀，树上的柿子少了很多啊。这一定是被谁摘走了。喂，吉四六，这到底是怎么回事？”

于是，吉四六面不改色地回答：

“是啊，村里的孩子接二连三地来，他们用棍子把柿子打下来了拿走了。我可是按您说的，好好地看着呢，一点没错。”

“哎呀呀。我明明让你好好看着，别让小偷把柿子偷了，可是……”

父亲十分失望地说。

じっと	一动不动
見つめる（みつめる）	注视、盯看
ゆかい	愉快、快活
留守番（るすばん）	看家、看家人
カキ	柿子
落とす（おとす）	使落下、使坠落
気をつける（きをつける）	注意
ちゃんと	规规矩矩、好好地
いっぱい	满、充满
姿（すがた）	身子、身影
走り回る（はしりまわる）	到处跑
さっそく	立刻、马上
だって	可是、但是
感心（かんしん）	钦佩、佩服
ふと	偶然、突然
ずいぶん	非常、相当
平気（へいき）	冷静、镇静
ガックリ	突然无力地、颓丧
泥棒（どろぼう）	小偷、盗贼
次々（つぎつぎ）	接连不断、络绎不绝

雪女（ゆきおんな）

雪女

03 雪女

むかしむかしの、寒い寒い北国でのお話です。

あるところに、茂作とおの吉という、きこりの親子が住んでいました。

この親子、山がすっぽり雪につつまれる頃になると、鉄砲を持って猟に出かけていくのです。

ある日の事、親子はいつものように雪山へ入っていきましたが、いつのまにか、空は黒雲におおわれて、吹雪となりました。

二人は何とか、きこり小屋を見つけました。

「今夜はここで泊まるより、しかたあるめえ」

「うんだなあ」

チロチロと燃えるいろりの火にあたりながら、二人は昼間の疲れからか、すぐに眠り込んでしまいました。

風の勢いで、戸がガタンと開き、雪がまいこんできます。

そして、いろりの火が、フッと消えました。

「う～、寒い」

あまりの寒さに目を覚ましたおの吉は、そのとき、人影を見たのです。

「だれじゃ、そこにおるのは？」

そこに姿を現したのは、若く美しい女の人でした。

「雪女！」

雪女は、ねむっている茂作のそばに立つと、口から白い息を吐きました。

茂作の顔に白い息がかかると、茂作の体はだんだんと白くかわっていきます。

そしてねむったまま、しずかに息をひきとってしまいました。

雪女は、今度はおの吉の方へと近づいてきます。

「たっ、助けてくれー！」

必死で逃げようとするおの吉に、なぜか雪女はやさしく言いました。

「そなたはまだ若々しく、命が輝いています。望み通り、助けてあげましょう。でも、今夜の事を、もしも誰かに話したら、そのときは、そなたの美しい命は終わってしまいましょう」

そういうと雪女は、降りしきる雪の中に、吸い込まれように消えてしまいました。

おの吉は、そのまま気を失ってしまいました。

やがて朝になり、目が覚めたおの吉は、父の茂作がこごえ死んでいるのを見つけたのです。

それから、一年がたちました。

ある大雨の日、おの吉の家の前に、一人の女の人が立っていました。

「雨で、困っておいでじゃろう」

気立てのいいおの吉は、女の人を家に入れてやりました。

女の人は、お雪という名でした。

おの吉とお雪は夫婦になり、かわいい子どもにもめぐまれて、それはそれは幸せでした。

けれど、ちょっと心配なのは、暑い日差しをうけると、お雪はフラフラと倒れてしまうのです。

でも、やさしいおの吉は、そんなお雪をしっかり助けて、なかよくくらしていました。

そんなある日、針仕事をしているお雪の横顔を見て、おの吉は、ふっと遠い日の事を思

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com